

# 「量的・質的金融緩和」とわが国の金融経済情勢

日本銀行副総裁  
岩田規久男

- \* 2%周辺に安定化させる
- \* 予想実質金利を下げる
- \* フォワードロック型予想
- \* 時間がかかる実体経済への波及
- \* 進む海外の投資家のリバランス
- \* なぜ低下、所定内給与
- \* 投資、輸出の増加に波及へ
- \* リバランスを促す金融政策
- \* 貸出増まであと1〜2年
- \* 必要な時点まで継続する



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は日銀副総裁の岩田規久男先生においていただきました。当倶楽部では2005年に金融政策についてお話をいただきましたが、東洋経済誌上では、岩田先生と当時、日銀におられた翁邦雄さんとの論争を長く連載したことがあり、その当時からリフレといえますか、インフレターゲットを早くから唱えられてきました。

やっとなんていいますか、日本もそういった政策を採るようになったわけですが、今の状況はどういうことになっているのか。マーケットでは日銀のさらなる緩和を期待する声があるわけですが、今日は現在の情勢、今後の展開につきましてお話しただけだと思います。それでは岩田先生、よろしくお願いたします。（拍手）

岩田 日本銀行の岩田でございます。よろしくお願いたします。今日は、日本銀行が2013年4月4日から採用している量的・質的金融緩和がどういうことを狙っているのかということ、それから実際にその狙いどおりになっているのかどうか、問題点はどういったところにあるのかなどについてお話ししたいと思います。

量的・質的金融緩和というのは、量と質の面で金融緩和するという意味ですが、日本銀行がこの政策で目標としているのは2%のインフレです。2%くらいのインフレが物価の安定水準であると考えています。

1%でなく2%くらいというのは、世界の主要国の標準がだいたい2%で、2%くらいの目